

関係各位

京都府病虫害防除所長  
( 公 印 省 略 )

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

## 発生予察特殊報第 1 号

病虫害名 トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)  
発生地 域 京都府内

## 1 発生経過

- (1) 令和 5 年 9 月 28 日、京都府北部の野菜畑に設置したトマトキバガ侵入調査用フェロモントラップに本種と疑われる雄成虫が捕獲された（写真 1）。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼し、府内では未発生のトマトキバガと同定された。
- (2) 10 月 5 日及び 6 日、京都府南部及び中部に設置したフェロモントラップでも本種の誘殺を認めた。
- (3) 本種は、令和 3 年に熊本県の施設トマトにおいて国内で初めて発生が確認された。以降、令和 5 年 10 月 11 日現在、国内 27 道県で発生が確認されている。

## 2 形態及び生態

- (1) 本種はチョウ目キバガ科に属し、成虫は、翅を閉じた静止時で体長 5～7 mm（前翅長約 5 mm、開張約 10 mm）。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一律に淡黒褐色である（写真 2）。
- (2) 幼虫は、終齢で体長約 8 mm。体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある（写真 3）。
- (3) 年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、地域によって差はあるが、年に 10～12 世代発生する地域もある。
- (4) 卵～成虫になるまでの期間は 24～38 日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。
- (5) 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうち平均で約 260 個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。

## 3 被害の特徴

- (1) 主な寄主植物はトマト、ナス、ピーマン、トウガラシ、パレイシヨ等のナス科植物で、マメ科植物のインゲンマメも寄主植物として確認されている。
- (2) トマトでの被害は、茎葉では内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる（写真 4）。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数 mm 程度のせん孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する（写真 5）。

#### 4 防除対策

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2) トマトキバガの発生が疑われた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センター、病虫害防除所に連絡する。
- (3) 発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
- (4) 令和5年10月1日現在のトマトキバガに対する登録農薬は表のとおり。なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

#### <参考文献>

植物防疫所病虫害情報 No.127、農林水産省植物防疫所（2022年7月）



写真1 誘殺されたトマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガ成虫



写真3 トマトキバガ幼虫



写真4 トマト葉の食害痕(飼育個体)



写真5 トマト果実の食害痕(飼育個体)

注) 写真2～5は農林水産省「植物防疫所病虫害情報 No.127」原図無断転載を禁ずる。

表「トマト」、「ミニトマト」でトマトキバガに登録のある農薬（令和5年10月11日現在）

IRAC コード*	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
5	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ラディアントSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ダブルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
6	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
	アグリメック (ミニトマトは未登録)	500～1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
11A	エスマルクDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
22A	トルネードエースDF (ミニトマトは未登録)	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
22B	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
28	ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)
	ベリマークSC	400株あたり25mL 液量:400株あたり 10～20L(1株あたり 25～50mL)	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)
	プリロツソ粒剤	2g/株	育苗期後半 ～定植時	1回	株元散布	4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)
	プリロツソ粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半 ～定植時	1回	株元散布	4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)
	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ヨーバルフロアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)
30	グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
UN	ブレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内

\* 殺虫剤コード。有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号で、本コードが異なる薬剤を使用すると、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。